

「庭園都市」の実現を目指して

芦屋市(オープンガーデン)

花が彩る街角を目指して

阪神・淡路大震災で大きな被害を被った芦屋市では、現在も新たなまちづくりを積極的に進めている。平成一六年に発表された「芦屋市庭園都市宣言」は、芦屋市を「花と緑いっぱいのもち」にしようというもので、「市民の皆さんの参画と協働により、世界中の人々が、一度は訪れてみたいと思う美しいまち」にすることを目指しています」と同市都市環境部公園緑地課の林茂晴課長は説明する。同宣言にのっとり、市民が参画したワークショップによって、「オープンガーデン」が提案され、平成一七年より実行されるようになった。

オープンガーデンとは、個人の庭などを一定期間、一般に公開する活動である。ガーデニングの本場であるイギリスの慈善団体の活動から生まれたもので、期間を限定して、入場料を取って自宅の庭を公開して人々をもてなし、その収益金を社会福祉事業や救済運動に寄付することを目的として始まった慈善事業である。

近年のガーデニングブームもあって、このオープンガーデンは日本各地でも行われるようになった。だが、イギリスのようにチャリティーとして実施するところもあれば、入場料は取らずに、花好きな人に気軽に見てもらったり、情報交換したりする場としてオープンガーデンを実施しているところもあるなど場所によってその方法は異なっている。芦屋市は後者であり、四月下旬に市民から公募した花壇や庭などを公開している。

昨年は五カ所所期間は一週間。公園はもちろん、個人の住宅や店舗など、その規模や内容はさまざまだが、「兵庫県まちづくりガーデナー」が積



街角を彩る小さな花壇も対象となる



個人の住宅でも自慢の庭や花を公開している



花が一番美しい14月にオープンガーデンは行われる



会場は芦屋市全域を使って設けられている。それぞれが個性的な花を咲かせており、全てを見ようと何日もかけるファンがいるのも分かる



芦屋浜の運河沿いに設けられた「アジアン・ユリオプス」の花壇。メンバー8人が協力して水をやりたり管理したりするボランティア精神にも支えられ、いつも美しく色づいている



オープンガーデン期間中は、市民はもちろん、他府県からわざわざ足を運ぶ人も多い

極的に参加した「アジアン・ユリオプス」の花壇のように、レベル的にボランティアの域を超えたものも現れている。同クラブの代表である廣井眞智子さんは、「この花壇は、私が学んだ兵庫県立淡路景観園芸学校の協力も得て、二〇〇六年に行われた国体での力ネー競技の会場となる運河沿いを花で美しく飾ろうと作り上げたものです」と説明する。設計から植え込みまで、全てクラブの仲間の手で作り上げたもので非常に美しく整備されている。

こうした本格的な花作りに触発されたのか、オープンガーデンに参加する人の数は年々増えている。「今後は年間を通して自分の家の花を市民が楽しめるようなまちになればと願っています」と林課長は言う。それが実現するためには、官民が一体となって庭園都市づくりに取り組んでいくことに他ならない。オープンスペースを彩る花が果たす役割は、想像以上に大きいのもかもしれない。

(文責・CEL編集室)

CEL

芦屋市「オープンガーデン」問い合わせ先

芦屋市都市環境部公園緑地課
TEL:0797-38-2065 FAX:0797-38-2163
HP:<http://www.city.ashiya.hyogo.jp/machidukuri/garden-city/index.html/>